

平成 28 年度 第 6 回武蔵野市環境市民会議 議事要録

日時 平成 28 年 10 月 11 日 (火) 18 時 30 分開会
 場所 武蔵野市役所 412 会議室
 出席者 委員 15 名、事務局 4 名
 (委員：大江委員長、伊藤委員、落合委員、小玉委員、小林委員、清水委員、首藤委員、
 高清水委員、中野委員、西上原委員、白田委員、花俣委員、松岡委員、山根委員、郡委員)
 内容 生物多様性基本方針について
 環境政策課事業報告 廃食用油活用事業について
 武蔵野市の環境保全について
 その他

生物多様性基本方針について

発言者	要旨
委員長	今日は生物多様性基本方針の大枠、中間まとめ案について議論する。まとめ案は今後パブリックコメントにかけていくため、その前に一度議論したい。
事務局	(資料 1 「武蔵野市生物多様性基本方針 (中間まとめ案) について」説明)
委員長	<p>今回提示した中間まとめ案は完成版に向けての大枠であり、骨子に近いようなものである。具体的な内容は今後足していく。今回は、現在までにできている枠組みについて気付いたことをご意見いただきたい。</p> <p>目次を見るとわかるが、第 0 章の「生物多様性とは」で生物多様性の概念的な説明がある。第 1～3 章までが本編の中心となる。第 1 章「武蔵野市生物多様性基本方針について」も枠組みとして重要な部分である。第 2 章「武蔵野市の生物多様性の現状」は調査結果の羅列ではなく、歴史を振り返りながら武蔵野市の現状にアプローチしていきたいという説明があった。その中から武蔵野市の生物多様性の特徴や過去を振り返って現在に注目し、現在の武蔵野市の生態系ネットワークの位置付けを 3 駅圏でまとめている。</p> <p>3 章「あるべき姿に向けて」は武蔵野市が現状にどう向き合い、どう充実させていけばいいかという将来像、未来像、あるべき姿に向けての展開として、大きく 3 つの柱で説明があった。</p> <p>以上ご意見いただきたい。</p> <p>まず、大枠についての意見があれば出していただき、いくつか意見が出たら各論について気付いた部分の意見をいただきたい。</p>
委員	「生物多様性の危機」について私の仕事の経験から助言すると、危機だけではなく、今まで何が課題だったか、何が問題だったか、どんな成果が生まれたか

	<p>ということ付け加えてはどうか。</p> <p>もう一つ重要なことは、武蔵野市の環境の状況はよくわかるが、武蔵野市と環境条件が同じような規模の自治体と比較した中で、武蔵野市はどのような特色を持っているかを説明することである。たとえば、農地が少ないのか、あるいは絶滅危惧種が多いのかなどである。まとめ案3ページを充実させること等により、他自治体と類似したものにならないよう、特色付けをしてほしい。</p> <p>もう一つは、最近市報で市民活動の森について掲載を見たが、角度が違うけれども自然を守ろうとする主体がいくつもある中で、その主体をさらに生物多様性に向けて有機的に結合することは市役所しかできないと思う。活動の主体が個々に分散してはエネルギーが削がれてしまう。</p>
委員長	課題や成果がなく危機だけしか出していないということか。
委員	そのとおり。経営診断の場合、「何が課題か、何が問題点か、何ができないか、しかし成果はこういうものがあつた」という見方をする。これにより特色づけをすべきである。すでに認証を受けているかもしれないが、例えば ISO14001 の環境マネジメントを取り入れるなどはどうか。他に負けないものにレベルアップしたい。
委員長	大枠について意見をいただいた。この意見に対して意見質問でもよいので何か意見を出していただきたい。
委員	<p>市民の立場でいくつか質問したい。今ムクドリが非常に多いことはどのように捉えたらいいか。また、市民農園が盛んだが、子どもがいると害虫等危険であるため、皆虫よけスプレーを周りや木々にかけてながら作業をしている。生協の仕事をしていると、市民農園ではないが、市民に貸し出す農園から採れる野菜からディートが検出される。そういう現状をどのように考えるか。市民農園の扱いのみならず、除草剤がまかれている土地は、明らかに植物が消えてしまったり、そこだけが枯れていたりする。</p> <p>それ以外に、ナガミヒナゲシなどの動物以外の外来種をどのように捉えていくかということについてどう記されていくか伺いたい。</p>
委員長	<p>具体的な問題をどのように方針に盛り込むかは課題である。</p> <p>ただ、せつかくなのでムクドリや市民農園の農薬などについて何か問題意識がある方がいればご発言をお願いしたい。</p>
委員	ムクドリは確かに増えているが、自分の身を守るため集団になっており、目立つということもある。また市街地の明るい場所、人が往来している場所の方が他の生き物に襲われる危険性が少ないため、市街地の緑に集まっていることも考えられる。環境への影響は分からないが、最近虫よけスプレーは自分にかけるものではなく、周りにまくものが流行っている。
委員長	非常に具体的なお話をいただいた。このような話を基本方針のどこに位置付け

	るかはまた考えていきたい。
委員	3ページに生物多様性の危機と書いてあり、それが生物多様性の大枠の中の一つである。ここを検証し、問題点をたくさん挙げていくことによって解決策は何かが見えてくると思っており、そのために武蔵野市の問題点は何かということ突き詰める必要がある。また武蔵野市の緑は大きなまとまった緑というよりも、生垣などの一般市民が育てている緑が生物多様性に大きな役割を果たしている。今後も一般市民の緑を大切に育てていきたいと思うのであれば、一般市民が生物多様性に貢献しているということを明確に載せた方が良い。
委員長	あるべき姿にも関わるし、現状分析のあたりではネットワークなどにも関わるお話である。
委員	特徴として挙げられると思う。最初に事務局が説明していた、「生物多様性によるまちづくり」が一つのキーワードだと思う。やんばるの森にしたいということではなく、人間と生き物が共生する場であるためのまちづくりというのはとても重要なキーワードだと思う。
委員長	良い先例として事前に2自治体（府中、葛飾）の生物基本方針をもらっており、良いほうに似通うことは仕方ないと思うが、これを取り入れるべきなどの意見はあるか。
委員	前回つながりが大事という話が出ていた。全体の繋がりの中で私たちのまちや暮らしがあることは忘れてはいけない大事なことだと思う。そのつながりのところの記述が薄いように思う。エリアの特色の説明はされているようだが、ネットワークがどう描かれるかが出ていない。章立ての項目自体や施策にも関連性がない。
委員	緑の基本計画の時も説明する時に3駅圏の3つに分け、それぞれの地域はこうだという説明がされている。3駅圏に分けた説明はわかりやすいとは思いますが、それがどうつながってどうなるのかが大事だと思う。そこが欠けている。
委員	生態系のつながりをどう展開し、続けていくのが大事になる。また、武蔵野市としての課題を問い詰めるのはとても大事だと思う。片方では、武蔵野市は良い街、好きな街だという意見もあり、武蔵野らしさや、ストロングポイントをどう守り次の世代に残していくか、あるいはより良くしていくかという視点もある。マイナスの部分を変えていく部分もあれば、今のものをさらに良くしていく部分もある。武蔵野市には課題もあるかもしれないが、強みがあると思うので、それをさらにのばしていくことが武蔵野市らしさになると思う。ネガティブなものに取り組む努力もさることながら、これがやりやすい、楽しいと思うことに対して市民が参加するというような施策の方向性も提示されるとより良いのではないかと思う。

委員	みんなで守りましょうと言った結果、私たちにとってどうなるのか、どう幸せなのか、というようなことがあまり書かれていない。守り、取り組んだ結果私たちの生活がどうなるのか、生活にどう影響を与えるのか、そのあたりが書いてあると良い。
委員	とても良い意見が出ている。ここで整理をすると、現状課題からくるあるべき姿が出た上で今記されている3つのあるべき姿に繋がっているように思う。また、強いところを伸ばすという視点が大事だと思う。ストロングネスとウィークネスと2つの分析を現状分析から出す必要がある。生物多様性の視点でその2つを出さないと最後の「あるべき姿」に繋がらないと思う。
委員	3つのエリアに分けていると、うちのエリアは他とは違うという感覚になってしまうかもしれない。みんな繋がっているものであるので、エリアを分けずに武蔵野市にはこういうものがあるという流れをつかんで書いた方がわかりやすいし、市全体が仲良くなるかもしれない。 もう一つ、生物多様性の保全のところ、ハクビシンの話題が出たが、現在井の頭公園と善福寺公園の間で行ったり来たりするハクビシンが多く、自宅にも現れ被害を受けたことがあった。結局、防護柵を設置するなど対策を行った。保全は良いが、保全に関してハクビシン等をそのように位置づけるべきかを検討すべきである。
委員長	ちなみにどんな害があったのか。
	狭いところから入り込み、天井裏に染みがあると思ったらハクビシンのふんがたまっていた。夜中に音を立てていた。雨どい等全ての侵入口に柵をした。
委員長	4ページのハクビシンやアカミミガメは事務局でどういう例で出しているのか。外来種だけの意味か。
事務局	外来種という意味で出している。害虫害獣という意味では出していないが、そのような視点も検討する。
委員	ミシシippアカミミガメとハクビシンは市内でも話題になっているので出したほうが良い。この辺はこの地域では話題になっている。ミシシippアカミミガメは、ミドリガメの名でペットとして普及して飼えなくなったために、捨てられている問題があり、ハクビシンも果物等の農作物の被害が問題になっている。
委員	空き家に住み込んでしまうこともあるらしい。
委員長	こんなに可愛らしい顔をしているのか。
委員	ハクビシンは生活に対する害もあるが、疥癬という伝染病が広がるということも今後のリスクとして考えられる。
委員	市民に知ってほしい。
委員	行政もただ例を挙げているだけというよりは、状況に応じては何らかの対策を

	<p>しなければならぬという位置付けを持った方が良い。</p> <p>学校ビオトープについて、ミシシippアカミミガメが大きくなって手がつかなくなつたという相談も受けて対応している。少し前はそういったものを引き受ける業者などがあつたが、今は外来種指定をされ受け入れ先がなくなつている。最後まで責任もつて飼つてほしいという啓発はしているが、今後も飼いきれずに関前の池や井の頭公園などに捨てられてしまう場合もあり得る。受け入れ先や殺処分などの適切な処理ができるルートを検討、用意をしないと、課題になってくるかもしれない。</p>
委員	<p>ハクビシンの話が出たが、今朝出勤して学校の門に入ろうとしたら校庭からハクビシンが出てきた。学校に生息しているか、通過地点になつている。前任校にいた時は、ちょうど夏季プールの最中にプールにふんをしていた。これは衛生上あつてはならないことであるが、そういったことが学校でも起つている。ミシシippアカミミガメの話もあつたが、学校には自然があるので入り込んで生き物を放していく人がいる。例えば、学校のビオトープにいるザリガニもそうである。ザリガニは一度入れられてしまうと駆除できない。駆除するためには全部水をさらつてほじくり返さないといけませんが、そこまでできないので、ザリガニを入れられてしまうと対応できない。ビオトープという自然環境の学習ができるいいものが武蔵野市にはあるが、最初に作つたときと比べるとだいぶ朽ちてしまつている。早い段階で手を入れていかないと壊滅状態になつてしまう。今その状況に近付いている。</p>
委員長	<p>貴重な情報であつた。外来種についてこの場で掘り下げるかどうかは別として、資料編で入れる等しないと市民には伝わらないだろう。</p>
委員	<p>ハクビシンを駆除するために高い費用がかつた。市の補助金はないので、出てほしいと思う。駆除できる業者は教えてくれたが、補助金が出なかつたことは残念だつた。</p>
委員長	<p>捕まえるのか。</p>
委員	<p>捕まえられないので、いないと分かつた時に入らない対策をする。</p>
委員	<p>今までの意見に補足したい。ハクビシンとミシシippアカミミガメ両方に共通することで、人と動物を介在する病気を持っている。ハクビシンは海外から日本に流通することは禁止されている。SARS という数年以上前に流行つた感染症があるが、それを媒介するのではないかとされている。そこまでいうと心配されるかもしれないが、現在日本にハクビシンがたくさんいて発生していないということは、日本のハクビシンは SARS については大丈夫だと思うが、疥癬を媒介する。</p> <p>またミシシippアカミミガメについては子どもは注意した方が良い。サルモネラという食中毒を引き起こす菌があり、ミシシippアカミミガメはかなり菌を</p>

	もっていると言われており、取扱いには非常に注意した方が良い。そういった啓蒙も必要だと思う。
委員長	日本にいるハクビシンはもともといたものなのか。
委員	かなり以前からいるという話は聞いたことがある。なんらかの形で入ってきたのではないかな。
委員長	中国では食用にしているようである。現在、狭山丘陵にもたくさんいる。外来種というものなのか。害獣なのか。
委員	<p>3ページの危機については、どちらかと言うと環境省などが言っている日本の生物多様性の話であって、武蔵野市の生物多様性の危機を論ずる箇所ではない。5ページの「目的」が3つあり、現状と課題と理想像を明らかにするということが書かれているが、課題の抽出がまだ書き込まれていない。課題の抽出をしないと何の対策もできない。</p> <p>私が気になっているのは、課題を抽出するときに、7ページから始まる歴史、また9ページでは特徴、11ページ以降では3つの圏域の話をしているが、課題を抽出する仕方としてこのテーマで課題をうまく抽出できるのかということである。歴史的に考えて何が課題なのかという考え方もあれば、エリアで考えた課題というものもあるのかもしれない。そこで、どのような視点で課題の出し方をするともっと本質に迫れるかを考えたい。</p> <p>また、先ほどから3駅圏の話が出てきているが、圏域ごとの街の成り立ちがかなり違うため、今回このような分類にしている。意見をいただいたネットワークという考え方から言えば、武蔵野市と周りとの関係について記載しないと、3駅圏の話だけで止まってしまい、違和感がある。</p> <p>もう一つ、課題を考えた場合に、伸ばすことも課題であり、弱い部分も課題である。課題という言い方に何を込めるか、それは自分たちが何を考えるかということだと思う。</p>
委員長	<p>これがパブリックコメントにかけるたたき台だとすると盛り込むべきことがまだまだある。意見を踏まえて修正すると、かなり違ったものになりそうだ。課題抽出について今出た強み弱みだけでなく、SWOT分析のような形で、Opportunity や Thread なども入れながら、そこから抽出したものをどう盛り込むかも検討しなければならない。</p> <p>参考資料として挙げられているものを、もう少し課題抽出に生かせると良い。課題までいかなくても、一つでも現状分析や何かに使って生かしてもらいたい。また、歴史の扱い方がとてもユニークで、武蔵野市らしい生物多様性というものが出そうだが、扱い方が難しい。どのようにここで特徴を出すか。</p>
委員	歴史を紐解いていく中にエピソードがいろいろある。例えば吉祥寺の井の頭公園だと貝塚がある。そこからは当時の生活形態が垣間見え、当時の自然環境が

	想像できる。また、井の頭公園のかいぼりで絶滅したと思われていた古い種の水草が発見された。このように、市民と共有するための武蔵野市を紐解くわかりやすいエピソードを入れればわかりやすくなると思っている。
委員長	昨日玉川上水ネットワークの人の展示会を見てきたのだが、新しい資料がたくさん出ていた。玉川上水だけでもたくさんの情報やエピソードが出てきそうである。歴史を取り上げる視点は今に繋げていくことができる。 生物多様性基本方針を良くしていく視点がたくさん出てきたが、他にご意見あるか。
委員	2ページに武蔵野地粉うどんが出ているが、これは歴史を紐解いているから出てきたと思う。歴史的に、畑しか使えなかったことを入れると良い。地粉うどんだけ突然出てきてもわからない。
委員長	これはたまたま入れた写真だと言っていたが、そういうことで良いので、気付いたことがあればこのような知恵があるのではないかということや、このような写真もあるなど教えてほしい。
委員	文書の中で、量の問題・質の問題とあるが、質の問題とはどのような問題があるのか、まだ掘り下げた提示、あるいは具体的な提示がない。 樹木の専門家からすると、高齢化してきている桜の並木も、虫や病害が広がってきている。成蹊大学のケヤキ並木も病気で倒木の危険がある、などという問題があちこちである。それを守るという課題もあれば、どう作り上げるかという問題もある。生物多様性は生物の総和であるので、緑地あるいは市の都市計画の中での緑の配置、面的な広がり、それを掘り下げていった時の樹木や動物や鳥などの生物がどう変遷あるいは変化していて、本来望ましい姿はどのような姿なのか、という議論あるいはテーマを設定していくと、どの時間軸のどの辺をターゲットにするか、あるいはどのクオリティの生態系を目指すかということにつながっていくと思う。歴史を出していくことはとても大事なことだと思っており、コンサルの情報も掘り下げて練っていくと良い。
委員長	今意見をいただいた時間軸の中で、18ページの資料以外におすすめの資料はあるか。今実際の調査ができないため、過去や今までの蓄積で使えるもので作っていく必要がある。
委員	自然に関する活動をしている団体がたくさんある。例えば鳥類のデータや観察記録などは良いのでは。また、個人的に付き合いのあるむさしの自然クラブにとっても虫に詳しい先生がおり、そういう方々の持っている知見も活用できると良い。武蔵野市は市民レベルで熱心に長く活動されている方が多いので、そういった方からいかに情報を吸い上げられるかだと思う。
委員	成蹊学園で小中高大の学生がどのような環境活動をしてきたかというシンポジウムがあり、参加したことがある。小学生は学園の中の畑の観察の一環で食べ

	物を育てていたり、どういう鳥類が飛んでいるかなどの研究などを行っている。そこで驚いたことが、実は大鷹が結構いるらしいということである。そういった希少種が存在しているような時代になり、そうするとどの時間軸で考えると良いかという考え方が難しい。武蔵野にいたことが幸せかどうかは鳥に聞かないとわからないが、現実的には武蔵野でも大鷹などが飛んでいる状況があり、それをどう価値判断するか難しい。
委員長	テレビでも報道していたが、山奥から里に出てきている本来いるはずがない動物がいる。
委員	<p>目指すべきところをはっきりつくるのが大事だと思う。第3章の「あるべき姿に向けて」という、ここに繋がるような中身があるとよい。それは今まで意見で出ていたような、過去にこういう取り組みを行ってきたいて、このような課題があって、というようなことだと思う。こういうことをやると良い、良くないという市民の行動につながる表現が必要だと思う。</p> <p>3つの地域に分けられているという話があったが、武蔵野市は全国区で住みたい街と言われ、その理由として都会と自然が融合しているということが言われている。東京の都市部からのグラデーションの中の最適なところに武蔵野がある。23区の都会からだんだん緑が増え、さらに奥に行くともっと緑が増えていくちょうど中間地点にある。非常に居心地のいい場所である。そういう表現をして、武蔵野が良い場所であることを何か入れると市民も嬉しいのではないか。</p>
委員長	武蔵野の良いところであるが、これを生物多様性とどう結びつけるかは難しいかもしれない。
委員	市民の想像のモチベーションと繋がると良い。
委員長	それこそ強みとして述べなければいけないところだと思う。ひとひねりふたひねりしていただきながら作っていかなくてはならない。
委員	<p>事前に貰っていた2事例は生物多様性イコール守って育てるということになっているが、武蔵野市としては生物多様性を守る限界もあると思う。市民生活にとってどういうレベルまでが共生できるか記述できるとユニークな基本方針になると思う。時間軸という表現とも少し近いが、過去に戻れば良いということではないと思う。時間はどんどん進んでいるので、方針の中で、我々が目指すものはこのような守り方だということを示し、何のために守るか市民が理解しないと、基本方針が出てみただけで終わってしまう。何が我々の生活にとって幸せになるのかという視点があると良い。</p>
委員	<p>自然として守るわけではなく、武蔵野市として見た時に、どのように取り組むかということである。多様性の保全だけではなく、生物多様性が分かりづらいのであれば、分かりやすく発信し、市民の情報共有レベルを上げるなどの取り組みも大切である。3ページまでの生物多様性の捉え方プラスもう一つ何かあ</p>

	ると良い。武蔵野市は立地的に一番良いところにあり、それを生物多様性のところでどう生かすか考えないと、武蔵野市の位置付けが生かされない。
委員	確かに、0章は国の基本、環境省の見解など日本全体の考えで書いてしまっている。これを武蔵野市でどう解釈するかというところが無いと違う自治体の話に見えてしまうので、それは考えなければいけない。市民の方が見てもぴんとこないだろう。
委員長	これは後でもいいが、0章と1章に続くところをよりわかりやすく書けると良い。
委員	先ほど出てきた市民農園の話の中で、スプレーの話が出ており気になっていたが、ジカ熱やセアカゴケグモのような報道が出ると市民の中には蚊を全滅させないとだめだと言う人もいる。情報共有をうまくやらないと極端な話になりかねないと思う。
委員長	人間も生物であるので、人間の多様性も含めて社会の多様性も含めて本来は考えないといけない。そこまでは広げられないが、そういった考え方もある。
委員	農協という職場柄、畑等を管理している立場にある。まとめ案に示されている課題等は皆さんと同じで少ないと感じた。自分は、環境は大切だと思っている立場で発言するが、環境を守れば守るほど市民にはなかなか受け入れられない方向に進んでいくのではないかと懸念している。畑を残せば残すほど市民には嫌われる、あるいは迷惑がられるという心境でいつもいる。行政の基本概念も同じ方向性は少なからずあると思う。そこには受け入れないといけない、逆に良いことばかりではないという表現が全くされていないことが不安である。
委員長	一方的に自然を残せばいいという話でもないことはたくさんある。それを啓発し、理解して、どこまで受け入れたりするか。その辺の情報のレベルを高めて受信をしてもらわないといけないところはある。最後の「取り組み」のところでも大事な課題になってくる。

環境政策課事業報告 廃食用油活用事業について

発言者	要旨
事務局	(資料2「廃食用油活用事業について」報告)
委員長	出席していた委員から何かあるか。
委員	こじんまりした会議に出させていただいた。実際に回収してバスや車を動かしている染谷さんの実績に基づいたものだったので納得できるものだった。自分になにができるかを考えた時に、天ぷら油を使ったものでも大丈夫、使用したあとのままで大丈夫ということを周知することが大切だと思った。

武蔵野市の環境保全について

発言者	要旨
事務局	(資料3「武蔵野市の環境保全」報告)
委員長	帰ってから目を通して気づいた点などあれば次回教えてほしい。委員の皆様にはぜひ見てほしい。

その他

発言者	要旨
事務局	(次回日程、今後のスケジュールについて説明)
委員長	パブリックコメントが先になるとフィードバックが難しくなる。パブリックコメントにかけたあと案を大きく変えるのは難しい。現在スケジュールがタイトになってきているが、パブリックコメントをどのあたりでかけるのか伺いたい。この委員会なしでパブリックコメントにかけるのは今日の議論を伺う限り心配である。年内あるいは正月明けにもう一度議論したい。また、パブリックコメントを工夫し、実質的なフィードバックがあるパブリックコメントにしたい。先生や子どもに関わる人等へのヒアリングなども入れ、多様な人の意見を聞きたい。なんとか実現できないか。その工夫をしてほしい。
委員	中間まとめ案という形になっているが、現時点で出せるレベルにはなっていない。今日意見をいただき、作り込みができていないと感じた。もう一度委員の皆様にご意見をもらわないといけない。しっかりと議論をしたうえで出したい。
委員	余裕なく作成してしまうと武蔵野らしさは出ないと思う。委員に協力いただきたい。